

清竜中学校 実践報告

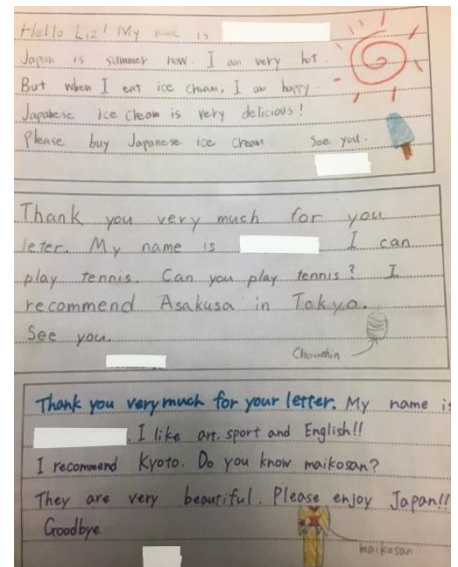
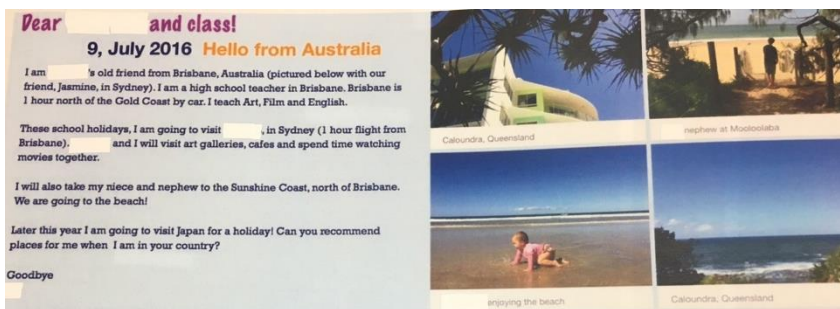
(1) 実践内容

○第2学年 レッスン3 Flight to the U.K.

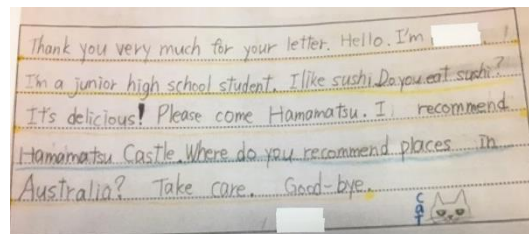
未来形 **be going to / will** を用いて、自分の予定を相手に伝えたり、読んで理解できたりできるようにする。

◎ポイント◎

- ・ 日常生活で英語を使う場面のない生徒が、英語をコミュニケーションの手段として用いるような場面を設定する。教科担任の友人から **e-mail** を送ってもらい、その返事を書いた。返事の内容は、送り主は来日予定だったため、日本のおすそめを尋ねられ、返事を書いた。
- ・ 書くことに苦手意識を持つ生徒が多いため、**e-mail** をきっかけに日頃から書く作業を授業に取り入れた。
- ・ 授業で英語を使う場面を多くするため、**all English Bingo** (会話ビンゴ) や、復習を取り入れた会話活動から授業を進めた。



写真は、
メールと返信の一部



場面設定をされた授業では、意欲的に授業に参加できない生徒も多く見受けられた。しかし、今回の **e-mail** では、普段英語に対して苦手意識を感じている生徒も、積極的に辞書を使って英文の意味調べをしたり、教科書の本文の単語を入れ替えて上手に英文を書いたりすることができた。

書くことに苦手意識を持っていた生徒が多かったが、1～2文の書く作業を **English Quiz** と称して取り入れた。差が出てしまうので、早くできた生徒から **Teacher** となり、周囲の生徒に教え合いを行った。その後、英文を暗唱し、10回行った後にテストを行った。復習の内容が中心だったので、時間は開始5分以内には終わるように意識した。

4技能をバランスよく学習するために、その日の中心の活動だけでなく、授業の導入の部分で繰り返した。

(2) 成果・課題

本校の生徒は、落ち着いた授業態度で授業に取り組むことができる。しかし、繰り返し覚えるまで英語の学習に取り組もうとする生徒は非常に少ない。今後も、英語をコミュニケーションの手段の1つとして活用できるような場面を持ちたい。自分の気持ちや考えを英語で表現できるように、4技能を統合的に指導しながら、学習内容が定着するような授業づくりに努めていきたい。